

20260601GRCJ 加藤さんとの打ち合わせメモ

1. 目的 コンクリート骨材利用を含む PV ガラスのリサイクルに向けた標準化、マテバラに関する情報共有と議論
2. 日時 2026/6/1(月), 14:00~15:30
3. 場所 (一)板硝子協会(白金高輪)会議室 A
4. 出席者 GRCJ 加藤さん、板硝子協会伊東さん、AGC 工藤
5. 結論
 - ・ 廃 PV リサイクルカレットの板ガラス製造受け入れ基準は、建築用板ガラス原料としてのカレット品質ガイドラインであるが、ジーマテリアル様式での作成を検討する。
6. 議事内容
 - (1) GRCJ 総会&エコプレミアムシンポジウムの案内
 - ・ 第 27 回総会と第 23 回エコプレミアムシンポジウムは、2026/8/6 に国際文化会館で開催予定
 - ・ 環境省、経産省からの講演と、P V リサイクルの Player の(株)浜田から浜田社長が講演する
 - ・ AGC 持続的経営基盤構築 Gr から長尾 G L の後任の野島 G L が講演を行う
 - ・ エコプレミアムシンポジウムで、DENSO の奥田様(Blue Rebirth)、醍醐先生の特別講演がある
 - (2) PV リサイクル：ホットナイフと千代田のハンマーの国内展開状況
 - ・ CPI(CONCRETE PRODUCTS INST'TUTE)による、即時脱型コンクリート製品製造用再生ガラス骨材ガイドラインの紹介

→タイガーチヨダ様の PV リサイクルハンマーの全国展開状況と、リサイクルガラスを再生骨材として使用する意思のある CPI 会員工場 MAP の紹介をいただいた。**この需要は年間 10 万トンとみている。**
 - (3) リサイクル材の標準化、情報共有の要求
 - ・ **経産省の新市場創造型標準化制度の紹介**

→この予算で、各カレット業者にクラリティア日本版を展開することが可能か検討しているとのこと。
 - ① 板ガラスメーカーのカレット受け入れ基準

2000 年ころ制定の自動車用リサイクルカレット品質基準と、2024~2025 年実施の J-FAR 実証試験で策定した建築用リサイクルカレット品質ガイドラインを説明

→硝子繊維協会が PV カレット受け入れ基準を作ったとのこと

→TRE ガラスで PV ガラスの基準ができれば環境省の CE 予算申請ができるとのこと

→**板硝子協会としては、建築用板ガラス製造のカレット品質ガイドラインと合致すればよい。**
 - ② 建築用、自動車用板ガラスの使用後のカレットの SDS
 - ・ ガラスビーズ；フライ熔融、サイズ不適合品のリサイクル要求がある。
 - ・ 磨き排砂、研削スラッジもブロックに使える
 - ・ 鉄鋼スラグ、焼却灰スラグ等の CPI 受け入れ基準があるので、ガラスも作っていただきたい

CO2 排出抑制型廃ガラス高度利用システムの研究開発報告書中のジーマテリアル管理表の紹介

これを参照にカレットの SDS 情報 + 溶出試験結果での提供は可能か？

→可能である。既に板ガラスメーカーではカレットのリサイクルにつなぐカレット業者様等の依頼に対応し、SDS を準備し、必要であれば、廃掃法の特別管理産廃判定用の溶出試験結果を提供している。

→板硝子協会内で、ジーマテリアル様式での作成を検討する。

以上